

風土記の丘の花だより304

今、そしてこれから見られる植物(2026年1月17日)

最近、暖かくなったりものすごく冷え込んだりと、不順な天気が続きます。体調管理に気をつながら、冬の山歩きを楽しんでください。先日 NHK のニュースで、和歌山城でウメが開花と言っていたので、14日に見に行きましたが、風土記はもう少しかかりそうでした。



冬の木々が葉を落とすと、目立ってくるのが、丸く見えているこのヤドリギです。多くの植物は土に生えますが、ヤドリギは、ちょっと変わり者で、生きた木に生えます。多くの場合エノキに生えますが、風土記ではポプラにも生えています。もうすぐここにヒレンジャクやキレンジャクという野鳥がやってきます。そしてヤドリギの実を好んで食べます。その実はネバネバしているので、糞もネバネバしています。ヤドリギの種子を含んだ糞が木の枝に付着して、そこから発芽するのです。



マツバランが、まだ細々と生き残っていました。場所はここには書けませんが、ここと、万葉植物園で確認されていました。でも、万葉の方はイノシシに堀り起こされて絶えてしまいました。マツバランは名前にランと付きますが、シダの仲間です。よく「根も葉もない話」などと言いますが、これは「根も葉もないシダ」なのです。園芸植物としても人気があり、この株も自生株とは考えにくく、どこかのお家で栽培されていたものの胞子が飛んできたものかもしれません。



春を代表する草花ホトケノザが、もう陽だまりで咲いています。葉の形が仏様の座る蓮華に似ていることから、「仏の座」と名付けられました。左にピンク色の花があって、右の方には赤くて丸い物がいくつか見えます。それは開かない花「閉鎖花・へいさか」と言われるものです。虫の少ないこの時期、花を開かないで、閉鎖花の中で、自力で受粉して種子を作る作戦に出たのです。こんな植物は他にもたくさんあり、みんな生き延びるために頑張っています。続いてこれもホトケノザです。でもこれは春の七草「せりなずな ごぎょう はこべら」の次の「ほとけのざ」です。本当の名前はコオニタビラコです。草のこんな状態をロゼットといいます。地面に張り付いたこんな姿で寒い季節を耐え抜くのです。風で倒れる事もないし、日光もたくさん受けられるし、この姿が好都合なのでしょうね。今の季節は多くの種類のロゼットを見ることができます。春になるとタンポポを小型にしたような黄色い花が咲きます。 松下

